

大人が絵本を 第94回 はいさい!



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事/ファウンダー

平和を考える 2022年

「はいさい、ぐすーよー、ちゅーうがなびら。」

今年5月15日、沖縄復帰50周年記念式典で、玉城デニー沖縄県知事が式辞のはじめに呼びかけた“うちなーぐち”挨拶に、ほっこり、にっこりしたのは私だけではないと思います。

沖縄では1972年生まれを、親しみをこめて「復帰っ子」と呼ばれることが話題になりました。復帰っ子も今年50歳、復帰の年に生まれたとはいえ、アメリカ統治下時代のリスクを請け負った生活を余儀なくされてきたのは承知のとおりです。

「復帰から50年たった現在も、わが国の国土面積の0.6%に過ぎない沖縄県に全国の在日米軍専用施設面積の70.3%が集中し、米軍人・軍属による事件・事故、騒音、環境汚染等、県民は過重な基地負担を強いられ続けております」と玉城知事が示したとおり、沖縄以外の46都道府県民が味わったことのない痛みとともに半世紀を過ごしてきたわけです¹⁾。

「沖縄と平和を考える」2022年は、ロシアによる戦争勃発の2022年となりました。当館の多目的ギャラリー「ビブリオラボ」で展開している月替わり絵本展では、昨年末に立案した5月の「沖縄展」を急ぎよ

「平和を祈ろう展」に差し替え、沖縄関連の絵本に留まらず、ロシアやウクライナの絵本を展示して違いを認め合い、平和を祈る絵本展を開催しました。

やるなあ! 「福音館」

日本が沖縄をアメリカ統治下におくことに同意した翌年、絵本の老舗出版社である福音館書店が創設されました。初代編集長を務めた松居直氏は、当時企画にも流通にも未開拓の領域を残していた絵本の分野への進出を果たすのです。それが1956年に創刊された月刊絵本「こどものとも」です。当初4~5歳向けにスタートするのですが、知識や経験は1歳違うととても大きな差があることから対象を5歳児中心と絞り直すのです。そして、新たに4歳児向け「こどものとも 年中向き」の出版を始め、1977年には3歳児に向けて「こどものとも 年少版」を創刊しました。さらに、1995年になって、赤ちゃんのための月刊絵本として「こどものとも 0.1.2.」を創刊し、成長に応じ細やかに分類して、今日まで毎月発行してきたのです²⁾。

福音館のたゆみない取り組みは、科学絵本の分野にも拡大し、「こどものとも」と対象年齢を同じにした月刊絵本「かがくのとも」を1969年4月に創刊するのです。未就学児だけでなく、大きな子どもにも焦点を絞ります。沖縄が返還されて十数年たった1985年には、小学3年生以上を対象とした科学絵本「たくさんのふしぎ」を創刊すると、学習過程にいる子どもたちの好奇心を刺激するばかりか、大人の学び直しにもなるテーマの月刊絵本を続々と発信するのです。

福音館書店は、いつの時代にも私たちに驚かせる創意工夫をしにかけてくるのですから目が離せないの



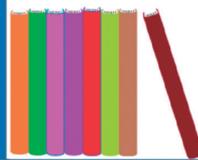
『てぶくろ』
ウクライナ民話
エウゲーニ・M・ラチョフ 絵
内田莉莎子 訳
(福音館書店)

『おおきなかぶ』
アレクセイ・N・トルストイ 再話
内田莉莎子 訳 佐藤忠良 画
(福音館書店)



手にするときは！

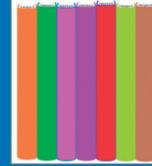
沖縄 



企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)



です。21世紀に入った2002年春のこと、「かがくのとも」の妹誌として月刊絵本「ちいさな かがくのとも」(3～5歳向け)を創刊したのです。「やるなあ！福音館」、思わず口について出てしまいました。

安心の理由

人間の成長に発達段階があるように、心身の発達に並行して「読書の発達段階」というものがあります。

そのうち、読書興味の発達段階は子守話期にはじまり、4～6歳の昔話期には科学への興味も高まる成長期ですので科学絵本導入のときに当たります。さらに、10～12歳の物語期は、スリルと感傷的な情緒を好むと同時に、科学者や偉人の発明・発見物語に興味をもつ傾向にあります。ゆえに、「かがくのとも」「たかさんのふしぎ」の対象設定があるのだと、福音館書店の月刊絵本群の構成に至極納得できるのです。

絵本でタイムトラベル

小学生の興味・好奇心に対して、科学的・歴史的・文化的に探究し理解を促す「たかさんのふしぎ」が、今からちょうど10年前の2012年5月号でテーマとしたのは、沖縄でした。本土復帰40周年に刊行された『琉球という国があった』は、沖縄が日本とは別の国「琉球王国」だった時代へ遡る歴史絵本です。

月刊誌ですので発行部数売り切りで、その後は図書館以外では入手できませんでした。しかし、読者から沖縄の歴史を知る、良い入口になるという声が寄せられて、2020年、復帰50周年を前にハードカバーとなったのです³⁾。

ところが、2012年に月刊絵本として発行されたと

きと、単行本化された2020年とでは、状況が大きく変わってしまいました。それは、表紙を飾る美しい首里城です。2019年10月31日の火災は、日本列島に衝撃が走り、悲しみに包まれたことが思い起こされます。

『琉球という国があった』

上里隆史 文
富山義則 写真
一ノ関圭 絵
(福音館書店)



ハードカバーの表紙見返しには、首里城について「本文をなおさず「たかさんのふしぎ傑作集」版『琉球という国があった』を出版することにしました。」とした編集部の言葉が記されています⁴⁾。あとがきにも注目です。「首里城がまた姿を現すその時まで、少しでも本書がその力になればと思います。」と、作者で浦添市立図書館長・上里隆史^{うゑさとたかし}氏の祈りが綴られています⁴⁾。『琉球という国があった』は、首里城探訪絵本でもあるのです。首里城の復建を願い、子どもたちと一緒に昔々の沖縄をタイムトラベルしてみませんか。



『へいわってすてきだね』

沖縄は、悲しいできごとでも喜ばしいできごとでもたくさん併せ持った県です。2013年の沖縄慰霊の日に平和祈念公園で行われた沖縄全戦没者追悼式で、当時6歳の少年が「平和の詩」を朗読したできごとは、皆さまの心に温かく記憶されていることでしょう。

沖縄県平和祈念資料館が主催する「第23回児童・生徒の平和メッセージ展」詩部門で最優秀作品に選ばれたのが、小学1年生だった安里有生^{あさとゆうき}さんの作品「へいわってすてきだね」で、少年の名前はたちまち



有名になりました。そして、翌年の慰霊の日2014年6月23日、詩のタイトルがそのまま書名になった絵本『へいわってすてきだね』がブロンズ新社より発行されると、平和学習資料のニューフェイスとして活躍することになるのです。

安里さんの詩に絵を描いたのは、関西弁の絵本を多数創作している長谷川義史氏です。ブロンズ新社の若月真知子編集長がニュースで安里さんの詩を聞き、言葉の力に驚いて書籍化を考えたことが縁で、依頼を受けた長谷川氏は、その年の9月に安里さんの住む与那国島へ会いに行くのです⁵⁾。画を引き受ける長谷川氏の決意が、本書「あとがき」に記されています。

歳は離れているけれど友情を感じたこと、この島の、あの友の思いを、願いを、しっかり描かねばならないこと、人々を殺し、傷つけることはまちがいであること、あの子たち、この有生くんたちを、戦争という名の、残酷で恐ろしい殺し合いに巻き込んではいけないこと、そのごくあたり前のことを、光のなかに生まれてきた一人の少年が、私たちに教えてくれているということ、です⁶⁾。

『へいわってすてきだね』
安里有生 詩
長谷川義史 画
(ブロンズ新社)



2022年、高校1年生になったであろう安里有生青年は、ロシアのウクライナ侵攻に心を痛み、きっと行動に移しているのではないかと推察しています。作詩の朗読をウクライナとロシアに向けて送っていることでしょう。

沖縄の基地問題に正面から向き合う絵本

「へいわってすてきだね」そう言えるのは、安里さんが沖縄を愛し、沖縄の歴史を築いてきた尊い

ちに敬意を持っているからだと思うのです。

絵本『じごくのそうべえ』でお馴染みの田島征彦^{たじまゆきひこ}氏も、沖縄を愛好する一人です。40年以上沖縄に通い続け、歴史の問題、基地負担のことなど沖縄と向き合いながら創作活動を行っている、日本を代表する画家で、絵本作家です。『やんばるの少年』や、「そうべえ」シリーズでは『そうべえときじむな-』（共に童心社）など沖縄を舞台にした作品があります。

1996年に発行した『てっぽうをもったキジムナー』（童心社）は、在日米軍専用施設が集中し、過重な基地負担を強いられ続けている沖縄の実態を子どもたちに伝える歴史絵本です。お話は日中戦争の頃に始まり、沖縄が日本に帰ったときのこと、ラストは1990年代です。60年近い沖縄の歴史を全36ページの絵本に収めているのですが、伝えるべきことが完結明瞭で、また染色技法のイラストが沖縄の文化を表していて、田島氏の沖縄愛が詰まっているのです。

巻末には1937年から1995年までの沖縄の歴史年表が付されていますので、沖縄県民が強いられている基地負担、米軍人・軍属による事件・事故等の事実確認ができ、この一冊で戦争と基地問題の成り立ちがよく理解できます。

想像を広げることは、平和を生み出すこと

沖縄の今と歴史を見つめ続けている田島征彦氏は、復帰50周年の今年4月25日に『なきむし せいとく〜沖縄戦にまきこまれた少年の物語』を童心社より刊行しました。その刊行記念インタビューで「ここ20年くらい僕らが経験した『戦争の時代』と、どこか同じ空気が感じられるようになったと思っています。かつて日本人が犯した罪悪すらをも、肯定する人が増えてきています。それはひとつ想像を広げる作業を怠っている人が多いということなのだと思います」と述べ、「どうしたら戦争を肯定するような言説に対抗できるのか。僕にできることといえば絵本を作ることしかありません」と氏なりの対抗策

を講じているのです⁷⁾。

私たち大人が絵本というメディアを読むことで、想像を広げる作業を繰り返しましょう。そして平和について考え、行動に移すことが必要なのだと思います。

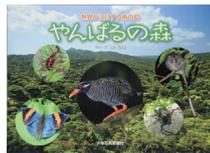


南の島・沖縄へ行きたーい!

日本復帰50周年の2022年NHK朝ドラ「ちむどんどん」で、就労上京した主人公が「やんばるに帰りたい」と叫ぶシーンがありました。「やんばる(山原)」とは行政上の地名ではなく、地図にも載っていない、地元でしか通じない呼び名でしたが、1981年のヤンバルクイナの発見で全国的になり、そして2021年やんばる地域や西表島などがユネスコ世界自然遺産に登録されたことで、わが国の誇り高い遺産となりました。

そんなやんばるの写真絵本『世界が目にする南の島 やんばるの森』は、自然の美しさに吸い込まれそうな図鑑のような、写真集のような一冊です。

『世界が目にする南の島
やんばるの森』
湊 和雄 写真・文
(少年写真新聞社)



やんばるだけで16種類も生息する天然記念物指定動物のほか、日本一の甲虫、亜熱帯植物、マングローブ林、亜熱帯の四季の風景などの写真が満載で、やんばるに行きたくなること間違いありません。



八重山諸島・宮古諸島はおはなしの国

沖縄の魅力のひとつは、本島以外の島々です。その島々が舞台の絵本もあるのです。文化を継承していくには、絵本というツールがふさわしいということです。

沖縄の伝統的な追い込み網漁のルポルタージュ絵本『海を歩く - 海人オジィとシンカノ海』(ポプラ

社)の舞台は石垣島です。竹富島で600年続く最大行事「種子取祭」と島民の暮らしを取材して『ちいさな島のおおきな祭り』(福音館書店)を刊行したのは、日中韓平和絵本シリーズを企画した浜田桂子氏です。小学館クリエイティブの「ふれあい写真えほん」シリーズより、『どこにいるのイリオモテヤマネコ』は聞かずとも鳥名がわかります。

言語学・学術研究出版専門のひつじ書房が2021~22年に刊行した「みる・よむ・きく南の島ことば絵本」シリーズは、学術絵本といえるでしょう。竹富島、多良間島、沖永良部島と続き、今年5月刊行の4作目『ディラグディ』(与那国島)で完結しました。

透き通った海、ハイビスカスやデイゴなどの植物、自然豊かな島々、天然記念物、紅型・琉球ガラス・三線を代表とする伝統工芸、食文化、温暖な気候、そして冒頭の“うちなーぐち”等々、日本が守らなければならない自然と文化にあふれた美しい島、それが沖縄です。だから米軍基地は、日本の問題なのです。

基地問題を考えるとき、沖縄の歴史とともに文化をも見つめる必要があるのです。沖縄絵本で想像を広げ、日本全国各地から沖縄に寄り添いましょう。



文献

- 1) 玉城デニー: 沖縄県知事式辞全文, 西日本新聞社, 2022年5月16日 朝刊, p.24.
- 2) 福音館書店: 月刊絵本「こどものとも」50年の歩み〜おじいさんがかぶをうえました, 福音館書店, 東京, p.23, 2014.
- 3) 絵本ナビ: 首里城や琉球王国の歴史を知る入口に! 『琉球という国があった』2020年2月5日刊行, 絵本ナビHP <https://style.ehonnabi.net/> 2020/01/17
- 4) 上里隆史 文, 富山義則 写真, 一ノ関圭 絵: 琉球という国があった, 福音館書店, 東京, p.41, 2020.
- 5) 琉球新報社: 安里君の詩が絵本に 「へいわってすてきだね」, 琉球新報DIGITAL <https://ryukyushimpo.jp/> 2014年5月20日
- 6) 安里有生 詩, 長谷川義史 画: へいわってすてきだね, ブロンズ新社, 東京, 2014.
- 7) <インタビュー> 田島征彦さん『なきむしせいとく』刊行記念インタビュー 「沖縄戦」を描く, 童心社HP <https://www.doshinsha.co.jp/> 2022.04.25.